

まえがき

社会生活基本統計は昭和 51(1976)年 8 月 6 日、指定統計第 114 号として指定された。この統計を作成するために実施されることになったのが社会生活基本調査である。記録によれば、この調査の背景とねらいについて、次のように記されている。「近年における経済・社会の著しい変化に伴って、国民の生活がただ物的に豊かになるということが、そのまま国民の福祉向上につながらなくなってきた。そして、国民の真の福祉を実現するためには、教育・文化、健康、余暇、環境など経済以外の面が重視されるようになってきており、国民の生活も単に働いて所得を増やすことだけでなく、それ以外の活動を含めて物的にも精神的にも充実した生活を求める方向に移ってきている。

社会生活基本調査は、このような新しい時代に即応し、従来どちらかといえば経済中心に整備・体系化されてきた統計が十分明らかにしていなかった国民の経済以外の生活面を総合的にとらえるために実施することになったものである。」(「社会生活基本調査の概要について」『統計情報』Vol.25 No.8 138 頁)

1970 年代半ばにあたるこの年は、その直後に世界を襲うことになる第二次オイルショックの前夜にあたる。それはまた、年率 10%をはるかに超えた高度経済成長はすでに過去の神話となり、また高度成長末期の公害や環境汚染といった成長の代償を踏まえて、「真の豊かさとは何か」、「望ましい生き方とは何か」といったことが追求された時代でもあった。ちなみに、右の資料に見られるように、第 1 回社会生活基本調査(昭和 51 年 10 月 1 日実施)の広報用ポスターには、「新しい生き方を求めて」という標語が踊っている。

また、この調査の調査計画によれば、生活時間や生活行動の内容が階層別、世帯構成別、さらには仕事・家事・通学等の状態や地域別に明らかにされ、「今後の年齢構成の高齢化、核家族化の進行など世帯構成の変化、所得や生活水準の上昇、労働時間の短縮、家事の合理化、週休 2 日制の普及、職業構成の変化、地域環境の整備などによって国民生活のどのような公道が増えるか、仕事と余暇の選択はどのようになるか。更に、自己啓発、文化的充実、健康の維持増進、社会との接触などいずれの方向を志向するか、どのような施設に対する需要が増えるか」(同 140 頁)といった分析を通して、生涯教育、公共施設計画、労働厚生福祉、コミュニティ育成、老人・青少年対策などへの利用が期待されている。

このような調査企画のねらいを、すでに人口減少局面に突入ししかも国民一人当たりの負債額が 500 万円を超えるという今日のわが国の社会経済状況に照らしてみると、かつてのような高成長は期待できないまでも、社会そのものについてもそれなりに未来の展望を描くことのできたためぐまれた時代であり、また統計についても体系的整備期に向けて新たな視点からの調査企画が可能な「統計の時代」であったように思われる。この調査はまた、国際的に見ても、この種の調査の実施は、経済以外の面を組み入れることによる経済計画を包摂する社会計画のための社会人口統計体系の整備という世界の動きとも連動するものとして位置づけられている。わが国だけでなく世界もまた新



たな社会像の実現に対する期待を統計にかけていたのである。

社会生活基本調査は、その後、5年周期の定期性調査として実施され、平成18(2006)年には、第7回調査が実施されている。今日、調査結果は、いわゆる time budget survey として、生活時間、生活行動に関する国際比較分析になくてはならない資料となっている。この調査については、主管官庁である総務省統計局の積極的協力もあり、比較的早期から匿名標本データ(いわゆるマイクロデータ)として広範な学術研究に供されてきており、既存の集計結果からは得ることのできない数多くの知見が蓄積されている。

ところで、2007年に全面改訂された新統計法によって政府統計の二次利用がわが国でも制度化された。これには、特定領域研究「統計情報活用のフロンティアの拡大の総括的研究」(1996-98年:研究代表者松田芳郎現一橋大学名誉教授)を契機とするこの種のデータの利活用をめぐるその後の長年にわたる官と学の連携協力の実績の積み上げが大きく貢献していることを付言しておきたい。

本書に収録した論考はいずれも力作であり、time budget survey としての本調査の国際的な広がり、さらには新たな解析へのアプローチあるいは知見の提供を通じて、社会生活基本調査の新たな活用可能性の文字通りフロンティアの開拓につながるものである。本書が、今後のわが国における政府統計の二次利用のわが国におけるさらなる展開にいくらかでも貢献できれば幸いである。

2010年1月

法政大学日本統計研究所